

下館新能



③



④

秋の筑西に舞う 幽玄の美

下館新能



①



⑤



②

①②能「羽衣」梅若修一師③狂言「呼声」野村萬斎師④能楽「安達原」観世鏡之丞師⑤能楽「安達原」野村萬斎師



編集後記

「協働」難しい言葉ですね。まちづくりの達人たちは、まずは行動することだと語りまます。必要なのは理想を語る言葉ではなく、ただ仲間たちと共に流す「汗」だけだと。(ま)

協和中で行われた薬物乱用防止教室。未成年のうちに薬物に対する正しい知識・乱用の恐ろしさを学ぶことは安易に薬物に手を出すことを防ぐにも非常に有意義である。(悠)

美術館、波山記念館、時の蔵で開催されている展示会を觀賞。波山の名作をはじめ、地元ゆかりの作家の素晴らしい作品に感動しました。みなさんもお見逃しなく。(あ)

秋の風物詩、恒例の「下館新能」(下館新能実行委員会主催)が10月12日、市民会館で開催されました。筑西市下館新能は旧下館市の市制施行35周年記念事業としてスタートしたもので、今年で21年目を迎えます。ステージ上につくられた特設の能舞台では、梅若修一師や観世鏡之丞師、野村萬斎師ら第一線の能楽師による能楽「羽衣」、狂言「呼声」、能楽「安達原」が演じられ、会場を埋めた800人のファンが幽玄と夢幻の美に酔いしれました。



10月の3連休に行われた報徳枝豆狩りには、今年も多くの人々が枝豆狩りを楽しみました。